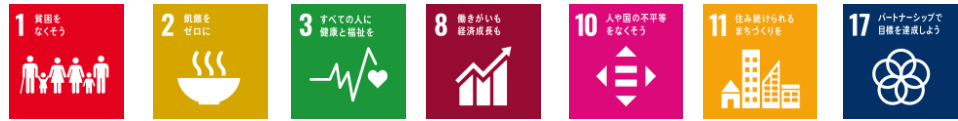


2021年5月17日

株式会社京葉銀行



農福連携推進による地域活性化に向けた4社協定締結について

～マッチングからノウハウ教育までの「農福連携の支援スキーム」構築～

株式会社京葉銀行（頭取 熊谷 俊行 以下、京葉銀行）は、2021年5月13日（木）、渡辺パイプ株式会社（代表取締役 渡辺 元 以下、渡辺パイプ）、株式会社マイファーム（代表取締役 西辻 一真 以下、マイファーム）、および一般社団法人日本基金（代表理事 國松 繁樹 以下、日本基金）と、「千葉県における農福連携推進による地域活性化に関する連携協定」を締結しましたので、お知らせいたします。

【背景】

千葉県は温暖な気候と首都圏に位置するという立地条件、さらに生産と販売の両面からも恵まれた環境にある全国有数の農業県です。

農林水産省が推進する「農福連携」の取り組みは、障がい者等が農業分野で活躍することを通して自信や生きがいを持った社会参画を実現する「社会福祉の推進」と、担い手不足や高齢化が進む農業分野での新たな働き手の確保につながる「生産性の向上」など、さまざまな関心が高まり、各地で広がりを見せています。

【目的】

今回、連携する4社の強みを相互に活かし、農業者と県内事業者（医療・福祉事業者等）が農福連携を円滑に開始できるよう支援するとともに、農福連携を普及させることで地域活性化に繋げてまいります。

【連携事項】

- (1) 参入希望者が円滑に農福連携に取り組めるよう、4社間で支援スキームを構築
- (2) マッチング・農業参入・効率的な農業生産および販路支援等の専門的スキルを支援
- (3) 相互に定期的な情報および意見交換等を行い、農福連携の地域ネットワークを強化

【協定締結日】

2021年5月13日（木）

【各社の今後の展望等】

株式会社京葉銀行

農業における耕作放棄地、後継者不足問題、障がい福祉における地域移行支援などの課題を、分野の垣根を越えて解決していくために農福連携を推進していきます。さらに、地域金融機関のネットワークを活かし、この取り組みを拡大させることで、地域活性化を後押ししてまいります。

渡辺パイプ株式会社

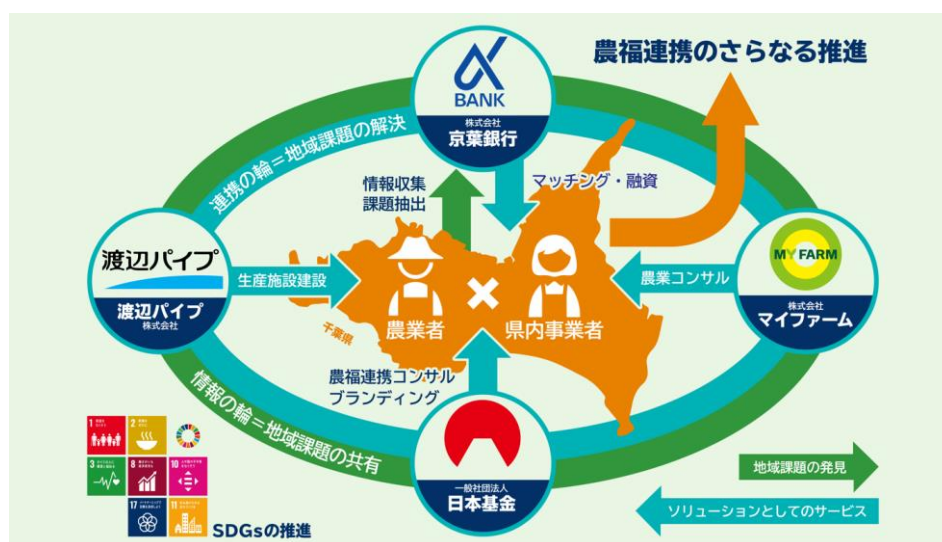
農業の課題である「労働力の確保」と「耕作放棄地の解消」に対し、生産施設の提供を通じて農福連携に取り組んでいきます。千葉県という農業に恵まれた地域性を活かし、安定した農作物の生産、流通ができる環境を創出することで、雇用の安定化、地域活性化に貢献いたします。

株式会社マイファーム

4社の強みを活かしながら、これからさらに注目される農福連携のハードルを下げ、企業向け研修プログラムの実施やコンサルティングを行い、弊社の理念である「自産自消（＝自分で作って、自分で食べる）」を広げ、耕作放棄地の解消および農業人財の育成を強化してまいります。

一般社団法人日本基金

千葉県の農福連携を推進し、多様な人が活躍できる地域づくりを目指します。4社で地域課題を共有し、総合的なコンサルティングによって農福連携を検討している農業者や事業者を後押しします。また生産物のブランディングによって生産品の付加価値を高めてまいります。



以上



京葉銀行ではSDGsへの取り組みに関するニュースリリースに、「SDGs 17の目標アイコン」を標示しています。

【SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）】

2015年9月に国連で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成される。